

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1772200364		
法人名	有限会社 ニシタ		
事業所名	グループホーム ぼたん		
所在地	白山市明島町西115番地3		
自己評価作成日	令和3年9月12日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイ・ワイ・エイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和3年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・本人のニーズを汲み取り、ケアプランに沿った支援を行っている。スタッフ間の報告・連絡・相談を怠らず、常に情報を共有し、アセスメントし、チームケアに取り組んでいる。
家庭的な環境と自然豊かな地域でのんびり過ごし、健康管理や、医療面では24時間体制の対応をしており、安心して過ごせる。
コロナ過ではあるが、利用者のQOL低下の防止、活動意欲の低下の防止に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所では、「利用者一人ひとりの個性・意志を尊重し、家庭的な環境と地域との交流のもと、暮らしのパートナーとして個性のある生活を支援します」を事業所理念に掲げ、毎年、理念を踏まえ、職員全員で「自分たち職員のあるべき姿の目標」を話し合い、継続的にその実践に取り組んでいる。今年度は、ミスをなくすこと(目視、確認、再確認)、思いに寄り添うこと(傾聴、尊重、自己決定)を目標としており、日々の関わりにおいて、これまで以上に一人ひとりに寄り添い、本人が自己決定できるような声かけに努め、支援に取り組んでいる。日々の会話の中で本人の思いや希望を把握し、本人の思いを大切にしながら計画を作成しており、本人の「〇〇したい」等の発言や日々の記録、家族の意向等から、ニーズを整理し、職員全員で話し合いを行い、具体的な内容の計画を作成している。計画は本人にも説明を行い、実際に取り組む、今年度、事業所内の行事の中で、炭坑節の披露することを実現した入居者もいる。現状、家族や地域との以前のような交流は難しい状況だが、手紙や写真の送付、窓越しでの面会、電話での会話等で家族や知人とのつながりの継続を支援したり、「ぼたんだより」の送付や書面での報告等を通じて地域とのつながりを継続する等、出来る限りの方法を工夫している。日常的な外出支援についても、気候の良い時期、天気が良ければ必ず、中庭に出たり、近隣の散歩に出かけたりし、気晴らしができるように促している。緊急時や災害対策のための研修、身体拘束をしないケアの実践のための研修等も継続している。緊急時等に備えた協力医療機関との24時間体制での連絡、協力体制の確保、夜間の自宅待機職員も配置も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、就業前に理念を唱和し、意識を高めている。理念に基づき、私達のあるべき姿の目標を職員で意見を出し合い、立て、毎朝、就業前に唱和している。	事業所理念とともに毎年職員全員で話し合っ作あるべき姿の目標を掲げ、日々その実践に取り組んでいる。今年度は、ミスをなくすこと、思いに寄り添うことを目標としている。毎朝の唱和や掲示を通じて、継続的な意識付けが行われている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々のボランティアの受け入れや、自施設での催し物を行う際は地域の方々にも声掛けしており、敬老会、文化祭、お祭りへの参加も行い、交流している。コロナ禍以降は直接的な交流は持てなかったが、ぼたんだよりを作成し、地域の方に郵送し、交流が途絶えないようにしている。	現状では、以前のような交流は難しいが、「ぼたんだより」を送付し、地域とのつながりを継続している。これまでは日々の外出や地域の行事等への参加、協力、各種ボランティアの受け入れ等を通じて、住民との交流を図り、事業所で行う研修会や避難訓練等には、老人会や地域住民の参加を呼び掛けていた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にスタッフ主催の研修会などを行っていたが、コロナ禍以降はぼたんだよりを地域に発行したり、自施設での身体拘束への取り組み方などを書面にてお伝えしている。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、ご家族の方や、地域の方を招いて報告、意見交換を行っているが、コロナ禍以降は、報告書を作成し、新型コロナウイルス感染への対策や、消防訓練の様子、身体拘束ゼロへの取り組みなど書面にて郵送し、電話でご意見を頂き、サービス向上に活かしている。	現在、書面での会議を続けており、2か月ごとに家族、老人会会長、民生委員、介護相談員、包括職員、市担当者等に報告書を送付し、意見を求めている。前年度末に各回のテーマを定め、普段であれば、同日に研修会や避難訓練を開催したり、曜日や会議の名称にも配慮し、より多くの参加を得て会議を行っていた。会議の議事録は玄関にも置かれている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3カ月に1回の連絡会や、年2回は運営推進委員会に参加して頂いていたが、コロナ禍以降はFAXを活用し、コロナウイルス感染症対策について等、担当者と意見交換を行った。	運営推進会議や市内グループホーム連絡会での意見交換等を通じて、市担当者との連携、協力関係の構築に努めている。普段から運営上必要な連絡等は随時行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には身体拘束の手引きを必ず渡し、説明をしている。外部研修やzoom研修を受けたスタッフが、内部伝達研修を行い、すべてのスタッフが身体拘束の内容とその弊害について学んでいる。玄関にセンサーマットを設置していたり、夜間センサーマットを使用している利用者がいるが、定期的に外せないか検討を行っている。日中の施錠は行っていない。	3ヶ月毎の身体拘束等適正化検討委員会や手引きの周知、外部研修とその伝達研修等を通じて、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。昨年度にはスピーチロックゼロを目標に掲げて取り組んでおり、職員の意識も高められている。現在、就寝時にセンサーマットを使用する利用者もいるが、事前の説明、継続的な見直しを続けている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について、職員同士で声掛けや対応の注意を払い、見過ごすことの無いように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている利用者があり、十分に成年後見人と連携が取れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族の負担が増えないように工夫、相談し、意見を常に頂くようにしている。契約の改定時は時間を設け、書面、口頭にて説明し、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人の思いをは日々の記録に記入し、面会時や電話、ケアプラン更新時の際には、家人の思いを聞き、家族シートに記録し、ケアに活かしている。苦情がでた場合は速やかに検討し、対応している。	現在、家族の面会は曜日を定め、予約制としているが、その面会の際やケアプランの更新時に、日々の暮らしの様子や状況を伝え、コミュニケーションを図りながら、家族の思いや意見を聴くようにしている。その際、聴くことができた内容は「家族シート」に記録し、日々のケアや運営に活かしている。2年毎の家族アンケートも実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を聞き、提案された事はすぐに検討し、活かしている。コロナ禍においては書面により、提案等頂いている。	現在、職員会議は開催していないため、文章にて職員からの意見を募ることもあるが、それ以上に、普段の業務の中で管理者が職員の意見や提案を聞くことが多く、提案等があれば、速やかに検討し、出来ることから取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則やキャリアパスによる給与体制・研修体制が定められている。夜勤勤務者は年に2回、健康診断も行っている。研修後、報告書の提出と実際のケアの力量を見ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一度評価シートにて評価を行っている。伝達研修や、書面での研修を受けている。研修報告書を提出し、全職員が共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に1度、白山市グループホーム連絡会にて、FAXによる意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいたが、コロナ禍においては開催中止とし、書面にて意見交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に担当者会議を開き本人の思い、困っている事、不安な事を聞き、話し合い、ケアプランに盛り込みセンター方式の事前情報シートを利用し、サービスに活かしたり、今までの暮らしを大切にしたい計画作りや、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望・意見、不安等をお聞きしたり、センター方式の情報シートによる生活歴などを事務所にて、ゆっくりとお聞きし、関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に本人、御家族に見学して頂き、お話し、柔軟な対応に努めている。併設施設の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中、暮らしのパートナーとして掃除、洗濯、裁縫、食器洗い、を共にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば御家族に相談し、決定して頂いている。入所前からのかかりつけ医の送迎をして頂いたり、本人の好物や趣味の物を買ってきて頂いたり、利用者から電話を掛けたり、各御家族と本人の関係、距離を把握し、家族に協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や写真を送ったり、頂いたり、電話を活用したり、コロナ禍でも、窓越しの面会をして頂いたり、馴染みの方と交流が途切れないように支援している。	これまでのような関係継続の支援は、現在、難しいが、手紙や写真の送付、窓越しでの面会、電話での会話等、出来る限りの方法を工夫し、家族や知人とのつながりの継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席は常々、利用者同士の人間関係を考慮し、楽しく安心して暮らして頂けるよう、状況に応じて席替えを行っている。自ら輪に入って行けない利用者には職員が間に入り、交流を提供している。利用者同士が協力し合えるようなサービス(利用者同士、又は職員と利用者が一緒に出来るような作業など)の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には介護サマリーを渡し、本人の生活の流れ、ケアの工夫などを情報提供している。退所された方へ色紙にメッセージを書き、関係を大切にしている。相談や、問い合わせがあった際は丁寧に対応している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者からお聞きした事や行動を記録し、職員全員に周知し、思い、意向、希望の把握に努め、ケアに活かしている。	本人に寄り添い、日々の会話の中での本人の思いや希望は、「本人の思いシート」に記録し、職員間での共有を図り、より理解を深めながら、その実現を支援している。上手く伝えることが困難な場合でも、家族からの情報やこれまでの様子等から理解し、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には事前情報、センター方式による情報、本人、御家族からお聞きした情報を元にこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、検温し、身体状態を確認し、水分、食事、排泄、睡眠などを記録し、日々の状態、夜間の状態の把握に努めている。その日の体調に合わせ柔軟に無理のない範囲でケアプランを実践して頂く。現状の把握に努め、申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族からの意見を記録した家族シート、日々の生活を記録した介護記録などを元に担当者会議を開催し、アセスメントシート、サービス計画書に反映している。御家族の面会時や電話にて現状をお伝えし、一緒に考えて頂いたり、状況変化があれば御家族や職員で検討し、ケアに活かしている。	本人の思いを大切に計画を作成している。本人の「○○したい」等の発言や日々の記録、家族の意向等から、ニーズを整理し、職員全員で話し合いを行い、具体的な内容の計画を作成している。計画は本人にも説明を行い、実際に取り組み、今年度、事業所内の行事の中で、炭坑節の披露することを実現した入居者もいる。日々の記録や定期的なモニタリングを通じて、随時見直し等も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケア、様子、気づきを情報として介護記録に記録し、送り時や、担当者会議の時に話し合い、見直しに活かしている。特筆すべき事項は送りノートを使用し、全職員に周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護用品の紹介等を行い、利用者様、御家族の要望に応じて提供している。物品依頼を行うときは、家族の状況を個別に考慮し、資料提供や、業者の紹介、郵便で受け取りなど細かく対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、地域の図書館、スーパーなどを活用しており、地域の文化祭にも作品を出品したり、毎年出かけていた。地域の、書道ボランティア、傾聴ボランティア、カラオケボランティアの方にも月1回来て頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望をお聞きし、強制はしていないが本人、家族の同意を得て、かかりつけ医は新村病院へ変更される方が多い。月2回の訪問診察や24時間の往診・病院からの送迎による受診が可能となっている。御家族の協力により入所前からのかかりつけ医や、馴染みの認知症の専門医などへ受診も頂き、日々の様子の報告書を作成し、協力関係を築いている。	入居時に話し合いを行い、本人・家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。結果として、月2回の訪問診察、24時間体制での支援が整っているホーム協力医療機関を希望する機会が多いが、その他の医療機関の受診においても、文章での情報提供や結果の確認等を行い、適切な医療の継続を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に24時間連絡が取れ、日々の気づきは細目に報告し、指示を受けている。かかりつけ医の在宅総合医療管理体制を導入し、状態変化時には医師、看護師に24時間連絡出来、医療を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーをお渡しし、利用者様のADLや特徴などの情報を提供している。早期に退院出来るように病院と密に連絡を取っている。電話やFAXのほかに、SNSなども活用し、関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に書面にて説明し、同意を頂き、全職員が周知している。重度化・終末期になられた時もその都度様態変化ごとに説明し、同意を得て、全職員で把握し、ケアしている。かかりつけ医のスタッフとも密に連絡を取りチームで支援できる体制が整っている。	入居時に、希望があれば、ホームでの看取りを実施する方針であることを説明している。状態の変化が見られ、医師の判断があれば、改めて家族への説明を行い、意向の確認、同意を得たうえで、医師、看護師の協力のもと重度化、終末期の支援を実施している。今年度の実施例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命講習を受けたり、コロナ禍以降は、web動画やDVDを活用し、急変時の対応を実践的に訓練し、身に付けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時のけが、転倒、窒息の対応は24時間体制で、ナース、医療機関と連絡体制が整っている。加えて、行方不明時の緊急連絡網も用意し、夜間の自宅待機職員も配置している。	症状、状態別のマニュアルと緊急連絡網を整備し、救命救急受講、映像の視聴による研修も実施している。協力医療機関との24時間体制での連絡、協力体制を整備し、さらに夜間の自宅待機職員も配置して、緊急時の対応に備えている。	緊急時(特に窒息等)における職員の初期対応スキルを更に高めるために計画的、継続的な実技研修を実施されることを期待する。
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	新村病院と特養のあじさいの郷と日頃より関わりを持ち、バックアップ体制が整っており、緊急時の対応も応じて下さる。	協力医療機関による医療支援体制を確保している。協力医療機関系列の特別養護老人ホームや地域の介護老人保健施設によるバックアップ体制も確保している。また、併設する有料老人ホームとの連携も図られている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤体制を2名配置し、自宅待機職員1名確保し、緊急時には対応する事となっている。24時間看護師、新村病院の往診・受診体制も整っている。	各ユニット1名ずつの夜勤者を配置し、全体で2名の複数体制となっている。また、夜間帯の緊急時に備え毎日、自宅待機者1名を確保し、併設施設からの応援、近隣居住職員による応援体制も確保されている。夜間に備えた日中からの対応にも努めている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルと緊急連絡網が整備され、役割分担されている。年に2回、日中想定と、夜間想定での避難訓練を行っている。コロナ禍以前は消防署スタッフや、地域の消防団と合同訓練を行っていたが、コロナ禍以降は書面にて、地域の方に、報告を行い、評価、指導を仰ぎ、協力体制を築いている。	年に2回、昼間想定と夜間想定での避難訓練、通報訓練を実施している。普段であれば、2回のうち1回は消防署員、もう1回は地元消防団員が立ち会い、訓練に参加し、運営推進会議とあわせて実施する際には、訓練後に家族や地域住民との意見交換も行っていった。現在、地域からの参加は難しいが、実施状況を報告しており、地域との協力体制が維持されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアルが作成されており、緊急時の役割分担も決められていて安全確保の体制がとられている。	火災や地震、水害の発生を想定した防災マニュアルを整備し、水や缶詰等の備蓄、カセットコンロ等の防災用品の整備も行われている。定期的に消火設備や通報装置の点検も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けも他者に聞こえないよう工夫している。お一人での自室で過ごす時間も大切にしている。	入居者の名前は名字で呼び、トイレ誘導の場面では、周囲に悟られないような声かけを行っている。職員の申し送り等も別室で行ったり、インシヤルで伝達する等の配慮もしている。常に職員は、事業所理念や目標を意識し、本人が自己決定できるような声かけに努めている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や、レクリエーションへの参加など自己決定できる声かけをしている。洋服なども選択して頂いたりし、対応している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や生活リズムを考慮しながら、利用者の希望に沿った支援をしている。入浴日は一応決めてはいるが、本人の希望に応じて変更を行っている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人を選んで頂いている。訪問カットでは、本人、御家族の希望をお聞き、カットしている。化粧品を自己管理出来ない方はお預かりし、洗顔後や入浴後に提供している。髪の毛をピンでとめたり、自分で結べない方への支援も行っている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、片づけを一緒に行っている。利用者ひとりひとりに合わせ、お粥や、刻み食やミキサー食にも対応している。出来る限り自分で食べて頂けるよう食器も持ちやすいものに個別に対応し支援している。	毎日の食事は、栄養士が献立を作り、食べやすく、残さずにおいしく食べることができる食事を、併設施設にて手作りで調理している。ごはんのみそ汁の調理、料理の盛りつけはホームで行うが、入居者もテーブル拭きや片づけを手伝っている。おやつ作りやお祭りに合わせて行う笹寿司作り、外食等は今は控えている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御飯・副食の量、味噌汁の濃度、水分摂取量をひとり一人に応じた細かな支援をしている。水分摂取量が少ない方には御家族の協力により、ミロなど飲んで頂いている。習慣や、体調に応じて、個別に、食事以外のパンや缶詰め、栄養補助飲料、栄養ドリンクなど間食を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣とし、利用者に応じた声かけの工夫や介助を必ず行っている。うがいや上手くできない方には、口腔ケア用スポンジなどを利用したり、舌ブラシ、歯間ブラシなども活用し、ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは介護記録により把握に努め、トイレで排泄できるよう個別ケアを行っている。ひとり一人の状態に応じ、誘導時間や回数、声掛け、日中、夜間の紙パンツ、パットを見直し、使い分けている。	日々の記録を通じて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は、全員がトイレでの排泄を継続できるように支援している。排泄用品の使用についても状況の変化等にあわせ、随時見直しを行っている。トイレ誘導の際の声かけの配慮も行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、腹部マッサージや、運動、体操を促すなど、ケアをしている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決まっているはいるが、本人の希望を聞き、支援している。入浴中も自立支援を意識しながら介助者の関わり方も本人の希望をお聞きしている。入浴を拒否された方には声かけの工夫や介助職員を交代したり、時間をずらしたり、次の日に変更したりと柔軟に対応している。	火曜日以外は毎日お風呂を沸かしており、一人あたり週2回を目安に、本人の希望にそった入浴を支援している。シャンプーやボディソープ、化粧水、クリームの使用等個別の要望にも対応している。入浴を拒むような場合でも、無理強いすることなく、声かけの内容やタイミングの工夫をしたり、曜日の変更をする等して、柔軟に対応している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に応じて居室で休息して頂いている。一人ひとりの体感温度や体質に応じてエアコンを使用したり、布団の枚数、衣服を調整している。日中の活動を増やしたり、傾聴したり、して安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報を確認し、周知している。新しく薬を服薬する時は、様子や症状を詳しく記録している。症状に変化があれば、直ぐに看護師に報告し、指示を受けている。薬剤師とも、月に2回相談、報告の機会を持っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など役割を持って頂き、日々の張り合いや、喜びを提供したり、一人ひとりの生活歴や力を踏まえ、歌、裁縫、ぬり絵、計算、書写、スポーツ、散歩などを楽しんで頂いている。御家族の協力により嗜好品のお菓子、ジュースなどをお出ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出支援を家族や、地域の方と協力する機会はなかったが、施設周りの散歩や、日常的に、希望に沿って中庭に出て頂いている。遠方への外出希望の方もおり、実現に向けて時期を見ている。	気候の良い時期、天気が良ければ必ず、中庭に出たり、近隣の散歩に出かけたりし、気晴らしができるように促している。普段であれば、家族とともに外食や美容室に出かけたり、事業所でも、お花見や地域のお祭り見物、道の駅、寺院等への外出等、普段行けないような場所への外出を支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持の希望がある方は御家族の同意・協力を得て、所持して頂いている。コロナ禍以前は買い物外出の時に使っていた。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している利用者もおり、本人自ら自由に家族や友達に連絡し、会話を楽しんで頂いている。字が書ける方には、手紙や毎年家族に年賀状を書いて頂き、郵送する支援をしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には利用者様の作品を飾っているが、無縁、不要な飾りにならないように気を付けている。物品に対して混乱されそうな物は片付けている。室温、湿度に配慮したり、外の空気や光を取り入れたり、空調を調整している。	一人ひとりが快適に過ごすことができるよう、共用空間の温度や湿度の管理、採光、換気に留意している。また、過度な飾りつけは控え、年齢に相応しい装飾、落ち着いた空間づくりにも努めている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のテーブル、椅子、ソファ、ベンチの配置を工夫し、思い思いの場所で過ごせるような配慮をしている。気の合う方同士でフロアや居室で会話出来るような空間、カーテンで仕切り、一人になれるような空間作りを支援している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、寝具、衣服、御家族の写真、御家族からの誕生日メッセージなどをお持ち頂き、自宅の延長のような環境作りを工夫している。	各居室にはベッドとエアコンが備えつけられている。それ以外の家具等は自由に持ち込んでもらっており、レイアウトも含め、自由に各自が居心地よく過ごすことができる空間づくりを行っている。	
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、家具を利用し、安全に歩行できるような位置を工夫している。トイレなど混乱なく、自力で使用できるように説明書きを掲示するなどの工夫をしている。		